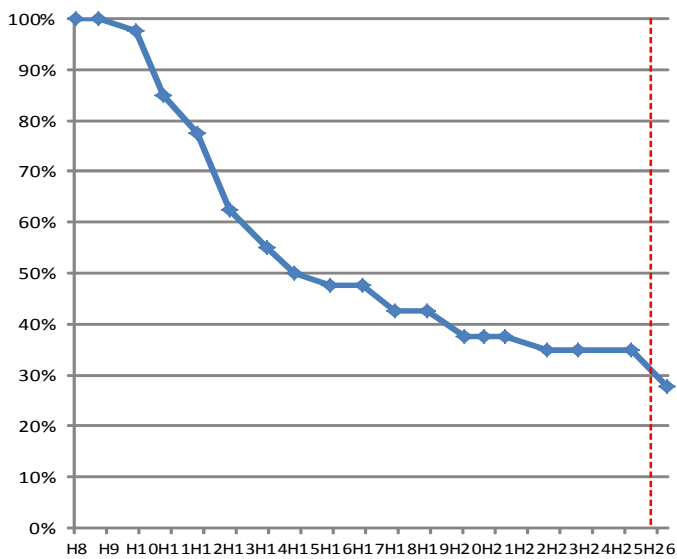


樹種名	ミズメ（別名：ヨグソミネバリ、アズサ）		
科 目	カバノキ科		
学 名	<i>Betula grossa</i>		
分 布	本州(岩手県以南)、四国、九州(高隈山まで)に分布する。		
樹木特性	陽樹であり、山地のブナ林内に混生するほか、林内の明るいところでは、いち早く成長を始める。		
用 途	建築・家具・器具材として利用。	  	
植栽本数/面積 （植栽密度）	470 本／ 0.14ha （約 3,000 本／ ha）		
特 徴	【樹 形】 カバノキ科カバノキ属の落葉高木。樹高は 25m ほどになる。樹皮は暗灰色で、横長の皮目が並び、サクラの仲間の樹皮に似る。薄く剥がれやすい点はカバノキ。葉は、新しい枝(長枝)に互生し、翌年からは短枝に 2 枚ずつ着く。写真は 2 年枝。葉身は卵形、先は鋭尖頭、基部は浅い心形か円形。縁には重鋸歯がある。雄雌同株で、開花は 4 月頃、果穂は 10 月頃熟す。材は重くてかたく、狂いが少ない。靴の木型、算盤、建築・家具・器具材に用いられる。		
試験地での様子	ポット苗植栽し、植栽初期の生育は良好であったが、寒風害が原因と思われる枯死が発生し、また、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生したため現存率は低い。 植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 11m 程度まで成長し、上長生長・通直性ともに良好である。		
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。 (延べ駆除本数 カミキリムシ類：39 本)		

ミズメ 現存率



【現存率】

植栽後に寒風害が原因と思われる枯死が発生し、さらにコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生し現存率が低下した。このことから、平成10年度に補植（10本）を実施した。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は27.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

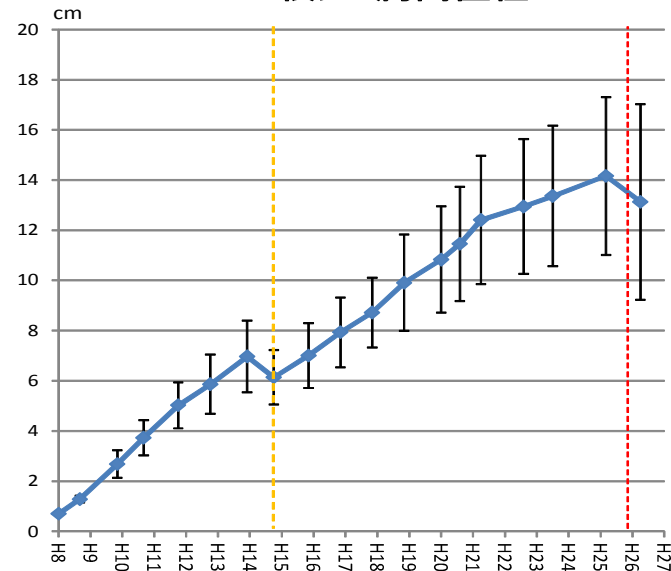
現存している樹木については、順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は13.13 cmであった。

※ 赤線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズメ 根元・胸高直径



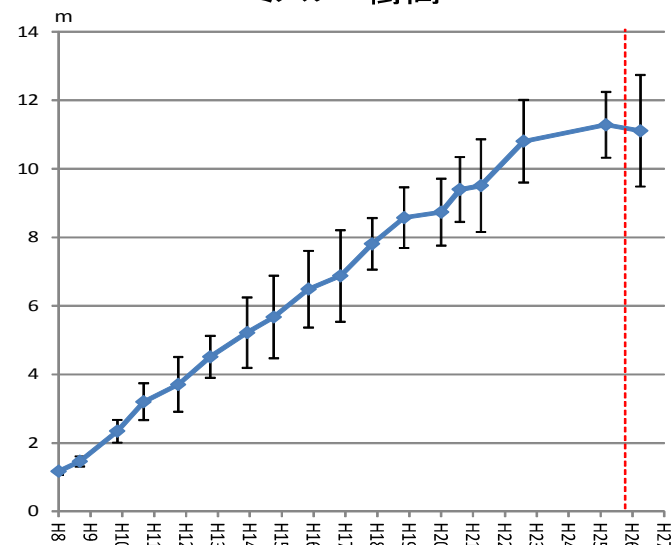
【樹 高】

現存している樹木については、順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は11.11mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズメ 樹高



《プチ情報》

ミズメの名は樹皮を傷つけると水のような樹液がでることによる。この樹液にはサロメチールのような強い香りがある。

台切り試験を実施したが、台切りの成果は確認できなかった。